

課題名	京都丹波産農産物の持続可能な生産支援	ものづくり	南丹農業改良普及センター
(1)普及指導事項（評価対象） ③気候変動に対応した技術の確立と普及		(2)普及指導対象 黒大豆・黒大豆エダマメ・ミズナ・水稻・小豆栽培農家	
(3)活動内容と成果			
・ J A、特産物育成協議会と高温対策に関する会議を開催し、実証・啓発活動の進め方について合意形成できた。 黒大豆・黒大豆エダマメ ・ 黒大豆研究会(会員 5 名)を中心に、簡易土壌水分計を活用した実証ほ場を設置し、主に開花期前後の土壌水分の変動に対応したかん水技術の啓発を行った。 ・ かん水技術講習会を開催し、うね間かん水の実際を展示(1 回× 2 か所)。J A を通じて広く生産者へ告知を行い、生産者のべ 30 名が参加。開催後、かん水を実施した農業者が多数見られ、調査ほ場では莢数増加がみられた。 ミズナ ・ 特産物育成協議会との連携によるパイプハウスへの遮熱資材の効果実証ほ場を設置(1 か所)。また、高温耐性品種の試作を実施(2 か所)。 ・ 実証結果に基づく、生産者等とのディスカッションを実施。遮熱資材は、温度抑制と発芽率向上の効果が理解され、労働環境改善効果もあることから、1 法人が導入。供試品種は高温期でも高い収量性が認められたが、農業者からは、品質、商品性に懸念ありと評価された。 水稻 ・ 高温耐性品種「きぬむすめ」の実証を行い、慣行品種より高い整粒率が確認され、農業者からは次年度以降も同品種を栽培するとの反応を得た。 小豆 ・ 少雨時の苗立数確保を目的として深まきを実証。は種前後に降雨があり、実証区・慣行区とも苗立率は高く、効果が判然としなかった。 ・ 簡易土壌水分計を目安としてかん水が実施されたほ場では、一定の莢数が確保された。			
(4)コメント		(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> 気候変動による特産物の安定生産・販売が困難な状況に対応する取組として意義があると考え。分かりやすいベネフィットを農業者に伝えながら、かん水技術の講習、技術実証ほなどの取組を通じて、各品目で一定の成果が出ており、評価できる。 今後、残された課題や大規模経営体へ同様の取組を展開する際に想定される課題の解決に向けて、研究機関と連携した高温耐性品種や新技術の導入・確立も進める必要があると考える。また、土壌肥料学的には土壌の物理性改良が基本的な高温・水不足対策であるため、優良事例を集めながら適切な土壌管理の指導につながることを期待する。		黒大豆のかん水について、今年度の取組は、莢の伸長、肥大への効果は限定的であり、かん水の必要な時期、量、頻度には検討の余地があり、不定形裂皮への対応も課題として残りました。これらに対するエビデンスの整理、技術実証に向けて、試験研究機関、農業革新支援専門員と連携して取り組んでいるところです。 土壌の物理性、特に根圏の確保は重要と考えており、土づくりと中耕・培土等の栽培上の基礎となる技術については、現地研修会などを通じて、啓発、農業者との意見交換、優良事例の検索を行うこととしています。 また、大規模経営体の生産法人から大区画ほ場でも実現可能なかん水方法が必要との意見もいただいております、法人と協働して現地実証を行うこととしています。	